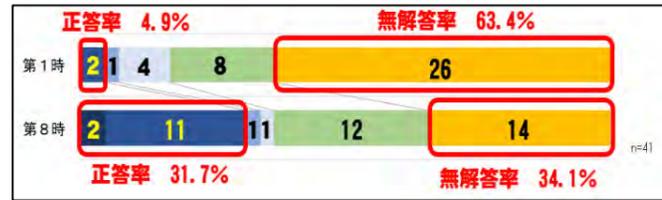


IV 実践の検証と考察

研究報告書 pp.37-52、補助資料 pp.21-37

読んだことを基に考えを書くパフォーマンス課題の結果から

第1時と第8時に、読んだことを基に考えを書くパフォーマンス課題を行いました。児童労働について書かれたSNSの投稿文を読み、文中の問いかけに対する自分の考えを英語で適切に書くことができるかどうかを見ました。第8時では、第1時に見られたような逐語的な読み取り方をする生徒が減り、コメントを書くところまでたどり着く生徒が増えました。そして、無解答率が有意に減り (p=0.0146 *)、内容や表現において適切に書いている正答率が有意に増えました (p=0.0032 **).



領域を統合させた目標を設定したことにより、「自分の考えを書くために読む」という目的意識を持って取り組むことにつながりました。読んだことを基に自分の考えを書くという一連の流れを繰り返す中で、自分事として理解や思考が深まり、目的に応じた内容や表現になるよう試行錯誤する過程で知識や技能を少しずつ身に付けていったことが、生徒の資質・能力の育成につながったと考えられます。

アンケートの結果から

必要に応じてICTを活用することの有用性を生徒も実感していることが、アンケートの結果から明らかになりました。その一部をご紹介します。

アンケートの記述 (一部抜粋)

学習者用デジタル教科書

☆自分のペースでスピード、回数を選べるので、自分に合う学習方法を効率よくできたと思う。

☆音声を聞けるので、正しい発音を覚えられ、リスニングの練習にも使える。

思考ツール・付箋機能

☆話す順序を自分が話しやすいように整理できる。

☆考えを整理できたから、話しやすかった。

検索機能

☆分からないことでも調べることで、自分が書きたい文を書けたし、表現も知ることができた。

☆さらに調べたいことも、前は教科書とかしかなかったから、役立つ部分がたくさんあって良かった。

V 研究のまとめ

研究報告書 pp.53-54

研究の成果

ICTを活用した三つの手立は、想定されるつまづきを軽減し、領域統合型の言語活動を充実させることに寄与することが分かりました。また、領域を統合させた言語活動に継続して取り組んだことで、読んだことを基に考えを書く資質・能力の育成につながりました。

今後に向けて

- 領域を統合させて言語活動を行う際、単一領域における資質・能力が土台となります。そのため、「領域を統合させた指導」と「単一領域における指導」を往還させることにより、総合的な資質・能力の育成を目指すことが大切だと考えます。
- ICTの特性を生かし可視化した考えを共有することで、考えをもつことが難しい生徒も、他の生徒の考えを参考にして取り組むことができると考えます。また、共有した英文を生徒同士で読み合い、目的や場面、状況に応じた内容や表現になっているか考え、より適切なものに改善することも必要だと考えます。



研究報告書と補助資料は、下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。
<http://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/106gaikoku.html>



二次元バーコード

研究主題

中学校外国語科における領域統合型の言語活動の充実に関する研究

—領域と領域をつなぐツールとして、ICTを活用することを通して—

【研究担当者】長期研修生 山崎 裕美子
 (所属校 山田町立山田中学校)
 【この研究に対する問い合わせ先】
 教科領域教育担当
 TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562
 E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

I はじめに

研究報告書 pp.1-13

領域統合型の言語活動とその課題

学習指導要領では、領域を統合させて実際のコミュニケーションに近い言語活動を行うことで、コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指すことがこれまで以上に求められています。

しかし、諸調査の結果から、領域統合の問題における無解答率の高さや、領域統合型の言語活動の実施状況の割合の低さといった課題があることが分かっています。

本研究における領域統合型の言語活動の充実の捉え

複数の領域を統合した言語活動を行う際、「内容を理解する場面」、「考えをもったり、思考を整理したりする場面」、「考えを英語で表現する場面」におけるつまづきが想定されます。生徒が必要に応じてICTを活用することで、それらのつまづきが軽減され、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、聞いたり読んだりした内容を理解して考えをもち、それを内容面や言語面において適切に表現できている状態」と捉えました。

本研究が目指すもの

そこで本研究では、領域と領域をつなぐ手立としてICTを活用し、領域統合型の言語活動を充実させる授業実践例を提示することを目指しました。

【研究構想図】



研究の目的

中学校外国語科において、領域統合型の言語活動を充実させることにより、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力を育成する授業の充実に資する。

内容を理解する場面

手立て1

学習者用デジタル教科書
検索機能

聞く・読む

■ 目的に応じた内容理解

一語一語訳すような逐語的な読み取り方ではなく、目的に応じて概要や要点を捉える読み取り方ができるように、下の表のように読み取る際の視点を共有しました。

概要・要点を捉えるためのポイント	
第3時	古代のチョコレートの特徴を表すキーフレーズに着目する
第4時	チョコレートの歴史について時間的順序を表す語句に着目する
第5時	段落ごとの内容にふさわしいタイトルを選ぶ
第6時	前時までの学習を生かして要点を捉える

学習者用デジタル教科書

文字を読むことが苦手でも、音声聞きながら文字を読むことで、内容理解がしやすくなりました。



検索機能

分からない単語の発音や意味を調べることで、内容を読み取ろうとしていました。

考えを英語で表現する場面

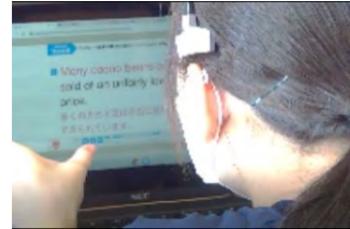
手立て3

学習者用デジタル教科書
思考ツール・付箋機能
検索機能

話す・書く

学習者用デジタル教科書

思考ツールで考えを整理したものを基にペアで伝え合う前段階として、音読練習の時間を設定しました。各自のペースで活用できたことで、個別最適な学びがしやすくなり、生徒は自分に必要な学習を行うことができました。音声聞く際には、ヘッドセットを用いることで、周りを気にせずに集中して聞くことができました。



■ 各自の必要に応じた活用

すぐに音読を始める生徒もいれば、最初に正しい読み方をインプットしたり、内容を確認したりする生徒もいました。下記の活用例のように、生徒は各自の必要に応じた使い方をしました。また、音読できるようになった生徒の中には、⑧や⑨の使い方をするなど、音読練習にとどまらない活用をしていました。友達の様々な使い方を全体で共有することで、学び方を知る機会にもなりました。

【生徒が行っていた活用例】

- ①再生スピードを遅くして聞く。
- ②聞き取れない所や分からない所を繰り返して聞く。
- ③日本語の意味を確認しながら聞く。
- ④アニメーション動画を見て内容を確認しながら聞く。
- ⑤チャンクを確認しながら音読する。
- ⑥モデル音声を聞いたあとに、リピートする。
- ⑦モデル音声を聞きながらオーバーラッピングする。
- ⑧ポイントとなる語句にマーカーを引く。
- ⑨英文表示を消して、自分で日本語の意味を書き込む。



考えをもつ、思考を整理する場面

手立て2

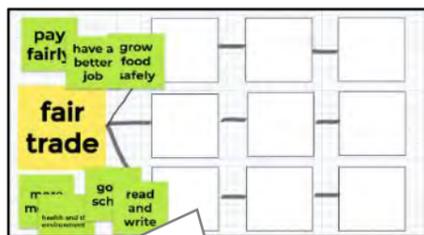
思考ツール・付箋機能
検索機能



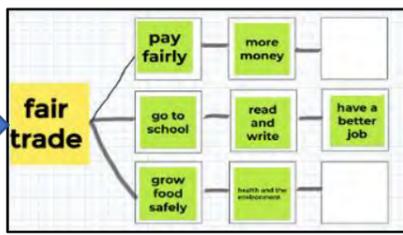
思考ツール・付箋機能

思考ツールとは、考えを可視化し整理するためのものです。思考ツールを用いて、何について考えればよいのかを把握し、話す内容や順序を整理しました。キーフレーズが示されていることで、生徒はそれをきっかけにして考えをもつことができました。

課題配信時



課題配信後、生徒が並べ替える



第6時に使用した思考ツールです。Google Jamboardの付箋機能を使い、指導者が作成しました。生徒は、自分が伝えたい内容を整理しながら、付箋を並べ替えて話す内容や順序を考えました。提示したキーフレーズ以外に、読み取った内容から考えたことを付箋に書き加えている生徒もいました。このように、簡単に加除修正したり、順序を並べ替えたりできることは、ICTを用いた思考ツールの良さのひとつです。

検索機能

必要に応じて、読み取った内容を補足する情報を収集しました。教科書に載っている情報以外に知りたいことについて詳しく調べることで、内容に関する理解を深め、その後の話したり書いたりする活動につながりました。

Do you know fair trade? There are many fair trade goods in the world. If we use fair trade, we can buy some goods at a fair price. As a result, we can save many poor people around the world and their children don't have to work. So the children can go to school and study there. Look at picture on the right. I recommend this fair trade coffee beans which don't have sour taste. So coffee made from this coffee beans is easy to drink. I think fair trade is important for the world. To buy fair trade goods makes poor people happy. Let's buy fair trade goods to save poor people.

The second Saturday in May is the day of world fair trade.

製品の画像

生徒が作成したメッセージボード

Ⅱ 授業実践の概要

補助資料 pp.1-20

単元名

PROGRAM5 The Story of Chocolate (SUNSHINE ENGLISH COURSE3)

題材内容

チョコレートの歴史、チョコレートのフェアトレード

領域別の目標

書くこと ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。

ゴールの活動

フェアトレードについて学校内外の様々な人々に関心を持ってもらうためのメッセージボード作成

■ 単元の指導計画

読んだことを基に考えを書くことができるように、領域統合型の言語活動を単元構想に位置付けました。その際、内容理解の後に、考えを整理する、ペアで伝え合う、それを基に英語で書く、という段階を踏むことで、生徒が取り組みやすくなるようにしました。また、授業内容に応じてICTを活用した手立てを組み入れました。

時	単元の目標と学習内容の理解 自己目標の設定 読んだことを基に考えを書くパフォーマンス課題【事前】	手立て
第1時	読んだことを基に考えを書くパフォーマンス課題【事前】	手立て 1・3
第2時	新出言語材料の学習	
第3時	読んだことを基に考えを書く言語活動①	手立て 2・3
第4時	読んだことを基に考えを書く言語活動②	手立て 1・2・3
第5時	読んだことを基に考えを書く言語活動③	手立て 1・2・3
第6時	読んだことを基に考えを書く言語活動④	手立て 1・2・3
第7時	ゴールの活動：メッセージボード作成 メッセージボードを読みコメントを書く 単元の学習の振り返り	手立て 2・3
第8時	読んだことを基に考えを書くパフォーマンス課題【事後】	手立て 1・3

思考ツール・付箋機能 【書く】

思考ツールで考えを整理し、ペアで伝え合ったことを基にして書きました。前段階で複数回話していたため、ほとんどの生徒がすぐに英語で書き始めました。

検索機能

語彙や表現、発音を調べることで、伝えたい内容を表現したり、教科書には載っていない多様な表現を学んだりしていました。辞書や教科書を使って調べても分からない時など、検索機能を用いることで、自分で調べて解決することができました。

思考ツール・付箋機能 【話す】

思考ツールで考えを整理したものをしながら話しました。内容面や言語面に関する中間指導を挟み、ペアを替えて複数回伝え合うことで、単語だけの発話でなく文で話せるようになったり、複数の事柄について順序立てて話せるようになったりしました。

【留意点】

日本語の文章をそのまま翻訳したため、読み手にとって理解しにくい文章になっているものも見られました。相手意識をもち、既習表現を使って言い換えることができないか考えながら、補助的に活用する必要があります。